

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイゆめときわ2		公表日		令和8年 3月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	狭いと感じるときはあるが、個室を用途に分けて工夫して利用している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	基礎要員2名に加配人員1名を配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		事業所へ行く手段が階段しかないが、不便さを感じている利用者さんはおらず、階段に手すりを付けたり、フロアには段差が無いよう工夫している。	事業所に上がるまでに階段があるので、荷物が多かったり、補助が必要な子がいるため、注意が必要になっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		衛生面に気を配り、毎日の清掃・消毒・空気の入れ替えを心掛け、清潔に保てるようにしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		集中して作業する部屋、クールダウンに必要な部屋など場面によって対応している。	個室に子ども達だけにならない様な職員の配置に注意しなければならない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		フロア会議での目標設定から振り返りまで全職員で行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者向けの事業所評価を行い、意見の把握、改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員向けの事業所評価・朝礼・終礼・フロア会議等で把握する機会を設けて改善に努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		行っていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		法人内での複数回の研修・外部研修への参加の機会を設けている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		全職員での話し合いをもとに支援プログラムを作成し、ホームページにて公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		子どもの情報を職員間で共有し、課題やニーズの聞き取りを行い児発管が作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	情報の共有をしたうえで、会議を行い職員全員で共通理解を進めながら作成している。	共通理解が不十分な場合は、適宜話し合いを行い、理解を深めていく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	計画の内容は会議で職員間で共有され、支援を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		フォーマルなものに加え、日々の様子を記録し、確認している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ガイドラインに沿って、職員間での話し合いで、具体的な支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		職員間で話し合い、担当者を中心にイベントに取り組んでいる。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		固定化しないように職員間で話し合い、季節のイベントなどを取り入れながら計画している。	常に新しいプログラムが無い職員間での話し合いを継続していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別活動・集団活動は必要に応じて作成し、組み合わせながら支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝朝礼で打ち合わせ、共有をしようとしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		何かあった時は職員間での共有と、記録に残し、次の日の朝礼でも共有するようにしている。	休みの職員への情報の共有を気が付けて動くようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		支援記録は毎日取り、問題点に関しては話し合い、改善できるよう努めている。利用が無くても重要な情報は記載している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年に1回のモニタリング会議を行い、児童一人一人の毎日の支援経過をもとに、必要であれば見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		基本は管理者が出席している。それが難しい場合は、代理の役割ができる職員が出席している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		要請などがあった場合などにすぐに対応できるような体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		情報の共有を行い相互理解を図っている。必要があれば担当者会議などを行うようにしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		必要に応じて情報の共有ができるような体制を整えている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7		必要に応じて情報共有できる体制を整えている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	公共の遊び場の利用し、機会はあるがイベントとして実施はできていない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時、連絡帳、電話連絡でも共通理解を持てるよう努めている。必要に応じて面談も行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		事業所で行っている支援方法などは、保護者様に共有させてもらっています。	ペアレントトレーニングを家族等の参加できる研修として行っていないので、機会があれば実施していきたいと考えています。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明させていただいています。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		契約時や会議の際に、保護者様の意向や願いをヒアリングして、支援に組み込むようにしている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		送迎時や難しい場合は電話連絡にて説明させていただいた後、署名をいただき、控えを渡すようにしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者会や会議、送迎時、電話等で相談できる場を設けて、必要に応じて助言させてもらっています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		年に1回の保護者会を開催し、保護者同士の交流・情報交換の場を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		迅速に対応できるような体制を整えている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月予定表を配布し、イベントの告知をしています。また、会報を発行して活動の様子などを発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		十分注意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		個々の特性に合わせてわかりやすい方法で伝えるよう配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	7	地域住民との交流はできていない。	地域住民を招待する場合のリスクなどがあるため現状開催していない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		マニュアルの策定と、定期的な研修・訓練を実施している。また、実施した際は会報にて報告させていただいている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPの策定をし、避難訓練や、救命救急の研修を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		アセスメント時の保護者への聞き取り、服薬調査票や与薬依頼書等での確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		アレルギー調査票への記入をしていただき、指示内容を書いてもらう項目を設けている。今年度は対象児童はいません。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画に基づいた研修・訓練を行い、安全な環境の下で支援を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画の策定、実施をし、保護者会やプリントの配布を通してご家庭に周知している。また、毎年緊急連絡先等を記載していただき連携がとれるようにしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		毎月提出している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		研修の実施と年に2回虐待防止委員会を開催し、周知徹底をしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		対象児は居ません。やむを得ず必要になった場合のために、いつでも対応できる体制を整えている。		